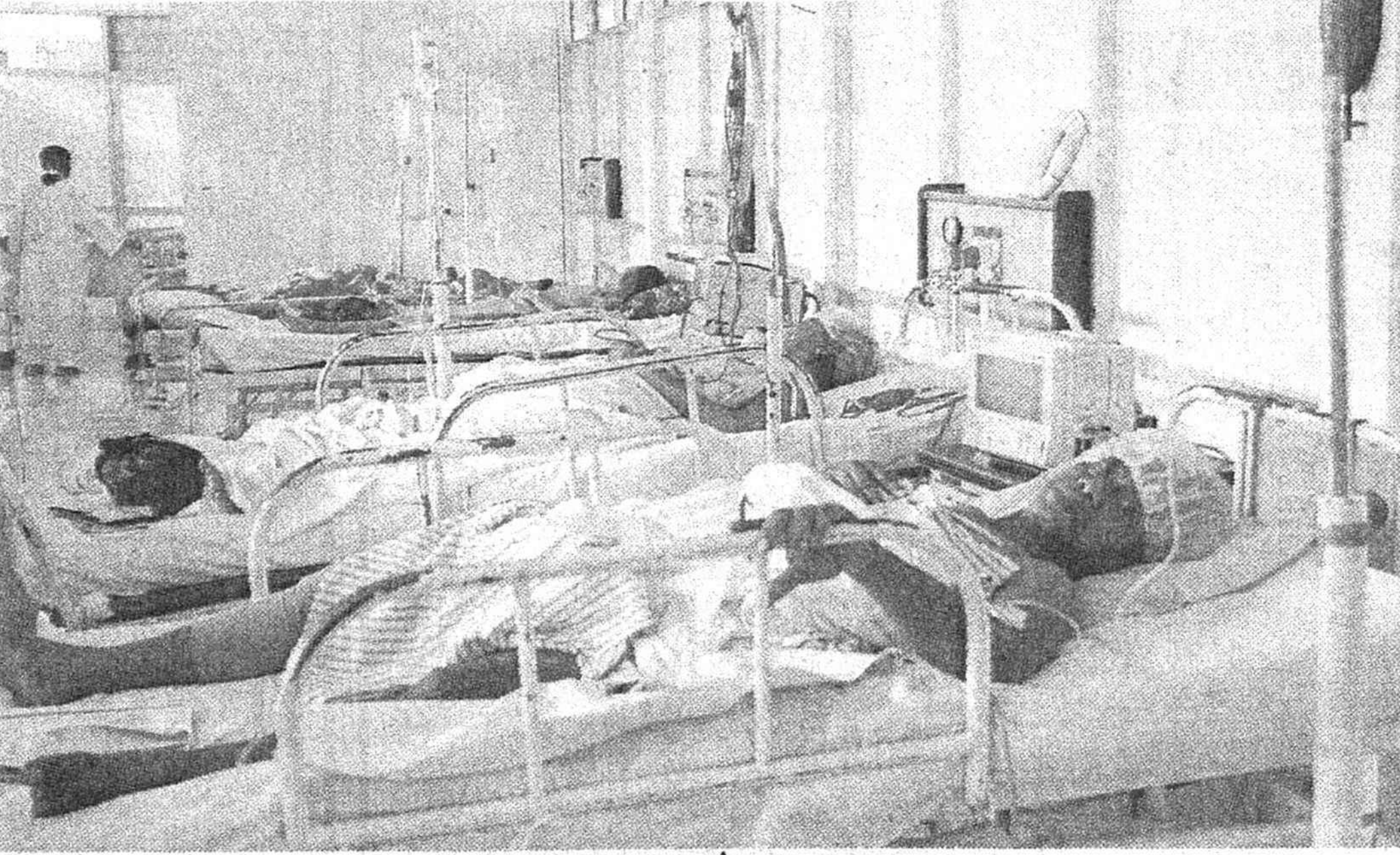


# 夜も眠れない

## ジャワ島地震1週間

【プランバナン(インドネシア)3日 日斎藤章一朗】インドネシア・ジャワ島中部地震から三日で一週間が経過した。被害が大きかったプランバナン周辺の村々は、倒壊した家があちこちに残骸をさらし、撤去作業は進まない。家をなくした貧しい人々を毎夜のように余震が襲う。募る不安の中で、国際医療ボランティアAMDA本部・岡山市)の救援活動は本格化している。(31面に関連記事)

AMDAの巡回診療が行われているペレン村。七歳の女の子、トゥトゥリ・ガルニアちゃんが母に付き添われてやって来た。「地震で友達が死んでしまった。夜も寝られず、ご飯も食べな



病院のベッドは重傷を負い、手術を待つ被災者で埋まったソロ市の国立病院

## AMDA 不安募らす住民救援

「プランバナン」母が、AMDAの医師細村幹夫さん(画)に訴える。

ガルニアちゃんはぼうぜんと空を見つめたままだ。地震のショックはひどい。細村さんは優しく母に語りかけた。「水を十分飲ませてあげること。それと、彼女の好きな食べ物を与えてください」

人口約千百人の同村は、死者二人を出し、世帯数五十五のうち四十五戸が倒壊したという。倒れるというより、上から何かの力で押しつぶされたようにひしゃげた建物の跡が並ぶ。約百四方の家々が一瞬にしてがれきの山と化したところもある。

「見てごらん。貧しい人の家は倒れて、裕福な人の家は倒れない。被害は貧富の差を表しているんだ」。AMDAインドネシア支部の医師が言った。

被災後、すぐにテント生活ができる人はまだ幸せだ。路上で暮らさざるを得ない人や、余震の不安から路上生活を選ぶ人も多い。

AMDAは日本やインドネシア、マレーシアなど多国籍医師団を編成。ジョクジャカルタ市に近いソロ市の国立病院で外科手術を任されているほか、中部ジャワ州クラテン県の地域診療を担当するプランバナン診療センターからの要請で、被災地四カ所での巡回診療を続けている。

同センターのアーメド・ブドゥリ所長は「AMDAは住民に受け入れられ期待されている。今後も活動の場は広がるだろう」と話した。

### 追加派遣

AMDA

インドネシア・ジャワ島中部地震で被災者支援に当たっている国際医療ボランティアAMDAは三日、現地に梶田未央調整員(倉敷市出身)を追加派遣(第四次)した。

梶田調整員はスマトラ沖地震の被災者支援のため五月上旬から滞在していたバンダアチエをた

AMDAインドネシア支部の医師らと合流。緊急救援活動の後方支援に携わるといふ。  
(長安亜矢子)